



京大・北大生がPFを見学

令和7年9月16日、京都大学及び北海道大学の学生等29名が、厚岸町と標茶町に広がる「パイロットフォレスト」を見学しました。

京都大学の研究林では、「森里海連環学」として、上流の森林と厚岸湖・厚岸湾、これらをつなぐ別寒辺牛川を対象地として、森林植生、水生生物、水質などに関する実習を行っており、今回は、その実習の一環として見学に訪れました。

はじめに、研修棟でパイロットフォレスト造成の様子を記録したDVDを視聴してもらい、その後、機械標本展示庫で当時使用していた機械を見学しました。

その後、移動し、望楼からの眺望では、高さ約24mからのカラマツ林の景色を楽しんでいました。あまり見ることでできない高さからの眺望を新鮮に感じて、遠くに見える羅臼岳や国後島を探して盛り上がりつつありました。また、初代望楼の写真を見て、驚いている様子でした。パネルを使った施業の説明では、本州の施業との違いとして、「なぜ、カラマツは枝打ちをしないのか。」といった質問もありました。本州で主流のスギやヒノキとの違いを説

明しました。

今回の見学を通して、パイロットフォレストについて知ってもらい、本州との違いや森・川・里・海のつながりについて考える機会にできていると良いと考えています。



▽望楼からの眺望を楽しむ様子



▽望楼と記念撮影

秋の広葉樹の森林づくり開催

令和7年9月24日、雷別自然再生事業地で、今年度2回目の「雷別ドングリ倶楽部」を開催しました。

これは高齢級のトドマツ人工林が立枯れし、笹地となった雷別国有林で、平成19年7月から「雷別ドングリ倶楽部」の会員の方々と森林再生に取り組んでいるものです。

当日は会員8名が参加し、郷土樹種であるミズナラ・ヤチダモ・カツラ・キハダを120本植栽するとともに、野生生物から植栽木を保護するため、保護管で被覆しました。センターから現地までの移動中、



▽植樹の様子



▽保護管を組立てる様子

所長から保護管の効果として、エゾシカ等の野生生物による被害を防いでいるとの説明がありました。現地到着後は、徒歩で植栽箇所まで移動しました。2人1組で、分担しながら、作業している様子が見られました。無事、予定していた苗木を植え終わることができました。昼食後、保護管の組立てと植栽した広葉樹への被覆を行いました。会員の方からは、「今年も植栽できて良かった。」「保護管の効果があるのですね。」等の声がありました。秋晴れの気持ち良い天気の中で、活動することができました。

雷別で植樹イベント開催！

令和7年9月27日、「雷別へ植樹に行こう Yo!」を開催しました。当センターでは、森林再生に取り組んでおり、今回は一般募集の植樹イベントを開催しました。

当日は、午前中にミズナラ・ヤチダモ・キハダの植樹と野生生物から植栽木を保護するため、保護管の組立て・被覆、午後から雷別国有林の散策を行いました。

笹の根が張り、耕すのが大変なところもありましたが、丁寧に、約30本の広葉樹を植栽しました。

次に、保護管の組立てと被覆を行いました。植栽した苗木への被覆が完了し、午前の活動を終えました。午後から、過去に植栽した箇所や、実際に立枯れしているトドマツを見学しながら、散策しました。

保護管を外す時期を検討するために、昨年度保護管を撤去した箇所も見学しました。約1年間で野生生物等の被害をかなり受けている様子があり、保護管で被覆する意味を伝えることができたと思います。

参加者の方からは、「1本1本の成長度合いが様々で個性豊かですね。」「保護管の組立てが楽しかった。」といった感想がありました。



▽立枯れしたトドマツを観察する様子



▽初めのごあいさつの様子



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533 【E-mail】h_kushiro_f@maff.go.jp

【URL】https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html



当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林を主な活動区域として、フィールドの特徴を踏まえて、教育関係者、ボランティア団体・地域住民、企業、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。